

「東アジア文化都市2016奈良市」カルチャーリポーター

<応募用紙 >

| | | | |
|----------|---|-----------|----------------------|
| 名前 | 東 文俊 (ひがし ふみとし) / 英文名 : Humitoshi Higashi | | |
| 生年月日 | 1996年3月26日 | 性別 | 男 |
| 連絡先 | TEL : 0 9 0 - x x x x - 〇 〇 〇 〇 | | |
| 所属 | 東アジア大学 文学部 東アジア文化専攻 | | |
| Eメールアドレス | culturecity-nara@city.nara.lg.jp | | |
| SNSアカウント | Facebook | easianara | Twitter @e_asia_nara |
| ブログ・サイト | http://culturecity-nara.com/ | | |
| 住所 | 奈良市東寺林町38番地ならまちセンター内 | | |

プログラム参加動機

現在の東アジアは政治的にさまざまな課題を抱えています。だからこそ、相互理解のために文化交流が大切で、東アジア文化都市はそのいい契機になるかと思っています。

私は、この4月からサポートクルーとして「東アジア文化都市2016奈良市」に携わっています。しかし、残念ながら私の周りにこの事業を知っている人は多くありません。そこで、普段からFacebookを使って、この事業の面白さを伝えています。友人のなかには、一緒にサポートクルーとして活動をはじめてくれた人もいます。

このたびのカルチャーリポーターには強い発信力が求められると聞いています。私がそれを持っているか、自信はありませんが、「楽しいこと・面白いことを多くの人に伝えたい」という気持ちは強くもっています。

カルチャーリポーターに選ばれたら、よりいっそう積極的にさまざまなイベントに参加して、面白いことを探していきたいと思っています。

カルチャーリポーター 企画取材 企画案

(企画内容については今後変更することも可能です。現時点での案としてご記入ください)

(例1)

| | | | |
|---|---|---------------------|-------------|
| 名前 | 東 文俊 | 作成日 | 2016/6/20 |
| 取材 予定日 | 2016/9/3～ 2016/10/23 | 記事作成 予定日 | 2016/11/15頃 |
| 取材対象 | 奈良市内社寺やならまちで展開しているアート作品と鑑賞者 | | |
| 取材テーマ | 「古都祝奈良」アートインスタレーションと「奈良めぐり」 | | |
| 記事作成 内容 (序論、本論、 結論に 分けて構成) | <p>(序論) 「古都祝奈良」で展開されるアートインスタレーション。従来の奈良観光で感じる奈良の魅力となにが違うのかを、鑑賞者への取材を通じて明らかにする。</p> <p>(本論) 社寺やならまち会場に足を運び、アート作品を鑑賞している人にアンケートを行う。歴史都市である奈良にアート作品が現れたことに対して、意見をもらう。鑑賞者がどのようなルートで、どれくらいの滞在期間でいたかなども聞き取る。</p> <p>(結論) アンケートでの聞き取りをまとめ、現代アートが奈良にもたらしたものを考察する。</p> | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none">・ アンケート調査は10人ぐらいを対象に考えている。・ 否定的な意見であっても記事には掲載したい。 | | |

カルチャーリポーター 企画取材 企画案

(企画内容については今後変更することも可能です。現時点での案としてご記入ください)

(例2)

| | | | |
|---|--|---------------------|------------|
| 名前 | 東 文俊 | 作成日 | 2016/6/20 |
| 取材 予定日 | 2016/8/1～30 (予定) | 記事作成 予定日 | 2016/9/30頃 |
| 取材対象 | 奈良市内各所 | | |
| 取材テーマ | 奈良でみつける中国・韓国 | | |
| 記事作成 内容 (序論、本論、 結論に 分けて構成) | <p>(序論) シルクロードの東端であった奈良には、さまざまな文化が流入してきた。特に中韓の文化の影響は色濃く、今なお街中にみつけることができる。</p> <p>(本論) 寺院や街中でみつけられる中国・韓国の文化について紹介していく。具体的には調査中だが、たとえば「ならまちに見られる鍾馗さん」など。</p> <p>(結論) 有名寺院などではもちろん東アジア文化をみることができるが、それ以外に私たちの生活に近いところで中国・韓国を感じることができる。</p> | | |
| 備考 | ・ 具体的な取材対象はこれから文献などで調べたい。 | | |

